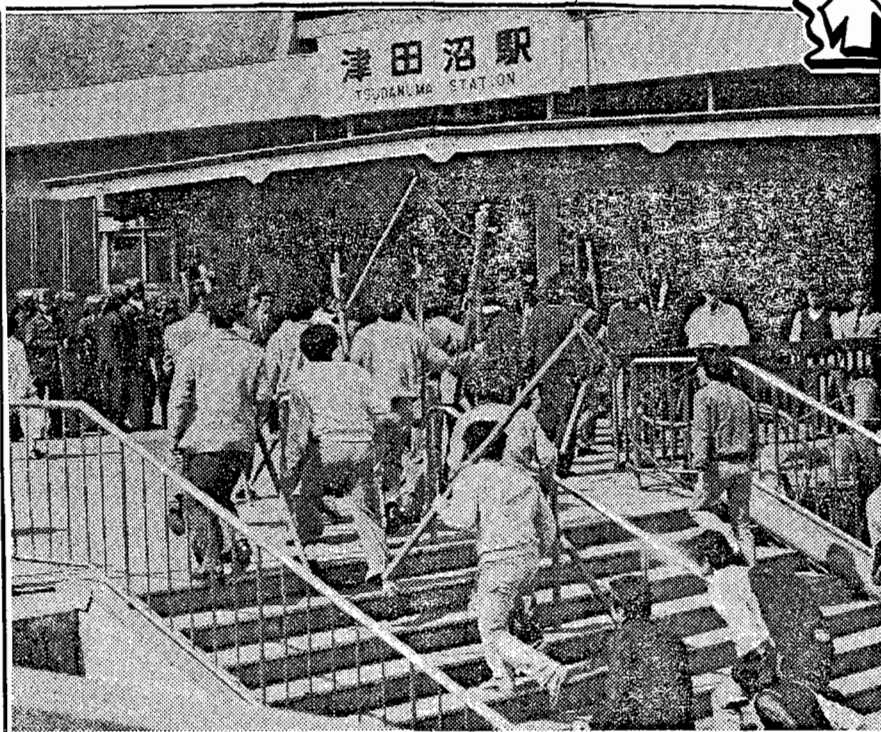


# 暴力破壊集団による新小岩支部の襲撃破壊！

(1979年) 4月18日 (水曜日) 千葉 労 働 界



機動隊員と利用者の前を竹ザオを背に引き揚げる本部オルグ団

この警察・当局との連合ぶりを見よ！  
4月津田沼支部襲撃に用いた青竹もフリーパスの「本部オルグ団」

**四日間の破壊「オルグ」破産であせりかられ兇暴化**

4・28〜5・1の四日間にわたる全国動員をもってする動労千葉破壊「オルグ」が完全に破産したことに直面した動労「本部」暴力集団は、五月二日以降も連日にわたって、中泉、小田、村上らの「本部」・関東青年部約一〇〇名をやっとかき集め、新小岩機関区に押し入り、各詰所にいる動労千葉の組合員に対しどう喝と脅迫をくりかえし、支部組合事務所の鍵をこわして中を荒らしまわるといふ破壊行為を行なっている。さらに、動労千葉組合員が乗入れている東京駅、我孫子駅などにも押しかけ、「オルグ」と称する脅迫を行なっている。彼らのこの蛮行の目的が、焦りかられた腹いせの襲撃であり、動労千葉を破壊することのみにあることをしつかりおさえ、怒りをもって弾劾すると同時にき然たる態度で反撃しなければならぬ。

権力・当局の力に頼って千葉破壊に専念した「本部」暴力集団！

四月二八日〜五月一日の四日間、「動労本部」側は、動労千葉破壊に全力を投入するため『七九春闘を完全に放棄』し、あまつさえ四月末決戦スト前段には、国鉄当局に「千葉破壊オルグを承認してもらおう」ためにやれもしない「順法闘争」をチラつかせてまで、国鉄本社を引っぱり出して「千葉破壊のおぜん立て」に腐心していたのである。また「4・17津田沼襲撃事件」に鮮明なように、国家権力側機動隊の積極的庇護・承認のもとに青竹やパールや石やカケヤを公々然と持ち歩き、二時間にもわたる暴行破壊の限りをくり返し、機動隊の目の前を堂々とひき上げているというゆるゆる連合ぶりである。

破壊「オルグ」で、動労千葉は団結し、「オルグ団」は分裂した！

そして、全国の組合員に対しては、「中野一派の暴力支配から一四〇〇組合員を解放する」なる全くのデタラメとデッチ上げをもって連日一〇〇名以上の全国動員を引き廻し、「四日間のオルグ」をもって『千葉地本が再建された』とデッチ上げようとしていたのであった。

しかし、大量の全国動員をもって全支部に押し入れば押し入るほど、「熱心なオルグ暴力的破壊行為」を積極的に行なう一部の暴力分子とそうした行為から目をそらせ、我れ関せずとそこかしこにすわり込み、いやいや動員に参加した部分とに「動労本部」側の矛盾と亀裂がますます深まっていったのである。

『千葉地本再建』のデッチ上げが大破産し、あせりかられ兇暴化！

その結果、「千葉地本再建」のデッチ上げが完全に破産し、「動労組合員確認書」にしても一人として書かせることが出来ず、五月一日の千葉運転区前における「本部」側総括集会ではついに公然と「何んらの成果も上げられなかった」ことを認めざるを得なかったのだ。

この結果に焦りいよいよ凶暴化した一部暴力集団は、五月二日以降も、乗入れ先や新小岩機関区に押し入り、文字通り脅迫と暴力と破壊のみを目的とした蛮行を連日くり返しているのである。

彼らが、来る五月一五日の第一〇四回臨中委までになんとか形だけでも「千葉地本再建」をデッチ上げて公表したがっているのだ、ということをしつかりとおさえ、一四〇〇組合員の団結を一層打ち固め、当面、新小岩支部に対する襲撃と乗入れ先での脅迫をき然たる態度で粉碎し、団結署名の全支部一〇〇%貫徹と全支部結成大会の早期実現にむけ、奮闘しよう。